じつくり闘う職場

三池もやがて一つに

矛盾さらけ出した〝差別政策〟

つきつける保安要求

重労働・低賃金・差別・抑圧——という現状に耐えきれず、三池新労組員ばかりでなく三池労組員の間からさえ、まるで逃げ出すもののように、三池を去ってゆく人がつづいている。

だが、その中でも闘いはつづいているのだ。

宮浦二分会の闘い

たとえば宮浦指導部の職場二分会（乙方で単層払、分層払、採重採炭、掘進、運搬、機械などくるめている）は、常に分会員七十二人の意志統一をはかりながら、あるときは職場ごとに、あるときは分会が一つにまとまって、闘いをすすめている。

一番勤務となる来週——三月二日＝組長会議（軽いケガ人が、会社から「保安教育に出てこんか」と誘われているのをどうすべきか、ということと日曜出勤に関する問題の討議のため）、三日＝全体会議（二分会として福利闘争、CO闘争をどうすすめるか、の討議のため）、五日＝三役会議（日曜出勤問題への意志統一と、退職者のための健保等級の取り扱い方の検討）、七日＝職場新聞編集者会議——古賀健治分会長のメモに記録された右の予定表が、そのことを物語るだろう。

つきつけた保安要求

中でも宮浦指導部二分会の単層払の闘いを見ると、常にぬかりなく保安に目を光らせ、要求をつきつけては不安個所の除去、保安の確保に努力している。

単層払は、「乙方単層払一同」の名をもって昨年の十二月三日同払の責任者の間宮係長に対して、次の要求書をつきつけた。

「現在までの負傷状況よりして裸天井、露出天井下の作業は必然的に、重大災害を起こす原因である。特に移転作業は、常時このような不安個所で作業する必要があるが、早急に裸天井、露出天井下で作業しなくてもよいように研究、対策をたてられたい。それまでは絶対災害を起さぬよう、早期にカッペ延長を実施し、そのこで移転作業をされるよう十分指導されたい」

命を守るために常に団結を固めて、厳重に保安確保についての注意を与えた。

差別支配の矛盾が拡大

現在会社が、労働者の団結をぶちこわし、あくまでひどい低賃金と非情な労働条件でしばりつけておくために押しつけている差別は、弱まるどころか、ますます強まっている。

運搬工を、ただ三池労組員だということで、本来の運搬の仕事につけず、雑作業を与えるなどの差別配役、たとえ同じ作業をやってさえ、こんどは賃金体系における合建による差別賃金の押しつけ——などのため、払採炭工などの場合は、新労組合員たちより、賃金が目に一千円（月にすれば二万円以上）も少なくなる三池労組員はザラにいる。これが、いっそう低賃金をひどいものにしている根源である。がしかし、このごろでは労働者数が急速に減ってゆくところから、この差別を三池労組員にだけにしぼって押しつける限界が破れ、新労組合員にまでも影響しはじめてきた。会社みずからの不当な支配の手がつくり出した矛盾にほかならないが、早や新労組合員の口から差別への不満が飛び出すまでになってきた。

「あんたげ（三池労組のこと）もこのごろやめる者が出よるが、困るばん。あんたげが減れば減るほど、矛盾ばおっどんがひっかぶらなんごつなってゆくが。これじゃ、一も二もなくなってしまうばん」

現にこんなふうに悩みをぶちまけてくる新労組員もいる。

不安個所を見のがさず、みんなが細心の注意を払って働くこの職場では、「死者」こそ出してはいないものの、それでも軽い負傷者が絶えない現状から、この要求は当然であった。

しかしその日昇降後同払の代表が、この要求書を手交するため係長のもとをおとずれると、同係長は要求書こそなかなか受け取ろうとはしなかったものの、「検討する」ことを約束し、さらに翌日の繰り込み時には直ちに職制に対し

「多くの同志が全国に」

三化の一退職者から金一封

去月二十四のこと、自分はこんど三井東圧化学（三化労組所属）を停年のため退職した、という人がわざわざ来組さいわい居合わせた宮川組合長に対し、金一封を贈ってくれた。「ぜひ匿名にしておいてほしい」とあったから一応「三化労組一停年退職者」として紹介するが、次の一文が同封されていた。

「去る二月十六日停年退職致しました、三化労組の一組合員です。反合理化、CO患者を守る闘い、差別反対等々労働者としての権利と生活を守るため、日夜日夜苦闘されて居る三池労組に心からの敬意をお送りします。小生も自からの生活を守るため自分なりに精一杯の努力を致して今日退職致しましたが、いまさらながらわが人生に悔いなしの感を強くしております。

如何に貧乏していても人間として、労働者としての良心は売ってはならないと、この二十一年間頑張ってきたことを誇りとしています。

すべての労働者の先頭に立って闘っておられる三池労組員の方々は、全国に多くの同志がいることを信じ、さらに健闘されることを祈ります。

同封の金はきわめて些少ですが貧者の一灯として、何かに使っていただければ幸いと思います。」

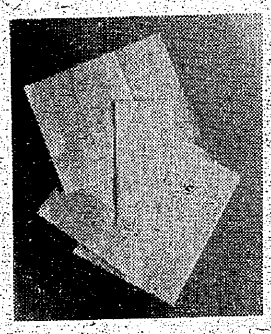
三化労組一停年退職者
三池労組御中

×

心からお礼申し上げるとともに、切にご多幸を祈るしだいです。

なおこのごろ、そこかしこの人、職場の皆さんから尊いカンパをいただいております。紙上からではございますが、心からお礼申し上げます。

三池炭鉱労働組合
三池CO患者守る会



贈られた感想文

現代の映像

三池の現状に　がまん出来ません

岐阜　青木芳枝さんの便り

拝皇、宮川様私は岐阜市職員労働組合の家族組合の青木芳枝です

昭和三十八年、国会の傍聴席で声をかけました。

一月二十三日の「現代の映像」（NHK）を見て、宮川様を思いだしました。お変りもなくご苦労下さっていられる様子にお見受けしました。唯々残念であり、ご苦労の程計り知れないものを見ました。

第二組合との差別。この矛盾にたえておられます皆様方に、私は心でわび涙を流しています。

全労働者がなぜ助け合えないのか。私は家族組合員の端くれですが、三池のご家族の闘ってこられた道をよく知っております。でもあのような、第二組合を使っての会社の圧迫を受けておられるとは知りませんでした。

いつもあの時の傍聴券をひきだして見ては「宮川さんはどうして見えるかな……」と思っていました。一度現代の映像を見ては、このままでは私ががまんできないし内容はよくわかりませんが、私共お互いに労働組合に危機がきています。

もっともっと三池の闘いを勉強したいと思います。もし差し障りがなかったらご返事を下さい。

×

青木さんのお住まいは「岐阜市南本荘四条通り七、青木秀雄様方」です。

やがて三池の労働者が一つに

宮浦二分会の中央委員朽網勝喜さん（単層払）は語る——。

「いまの生活の苦しさから、家族の連中も『賃金がいくらももらえん上に、いつ命をうしなうかわからんごたる危なか職場に、ようがまんしてゆくな？』と、ついぐちをいうこともあります。それには、すぐになっとくしてもらう言葉もなかですが、いま私の胸にある気持はただ一つ、自分として仲間を裏切りたくない、ということだけです。

三池闘争以前は、率直にいって私の気持の中にも、会社のために働いて……ということがありましたし、組合のため積極的に飛びまわる自分ではなかったのですよ。ばってん、仲間から、中央委員にも選ばれた以上、もう決心しました。やっぱり労働者全体がよくならん限り、ほんとうによくなることはなかけんですね。まして今年は、安保廃棄の闘いが待っており、CO闘争も重大となってきました。職場の理解はまだまだですが、現在私たちが闘っている保安闘争こそが職場での安保闘争、CO闘争だと思い、がんばってゆくつもりです。いますぐ実現はむつかしかでしょうが、新労組合員の人々とも、そのうちきっと手をにぎって、いっしょに闘う日がくることも信じられますから」

また古賀分会長は語る——。

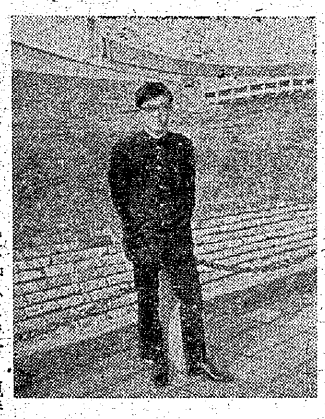
「だからこそ会社・職制はいっそう挑発をしかけて、処分しようとかまえとるとですたい。それに乗っては負けたも同じですけん、それをこっちは警戒し、いまこそじっくり腰ば落ちつけて闘ってゆかんならんときですよ」

まさにほんものの闘いは、これからである。

見事やり抜いた新聞配達

感謝状胸に巣立つ田中君

中学一高校生活の六年間、ついに新聞配達のアルバイトをやり抜いてこのほど新聞社と学校から〝感謝状〟と記念品（置時計と腕時計）を贈られ、うれしさいっぱいで学窓を巣立った三池の子がいる。



（写真は秀樹君）

こんど大牟田商業高校を卒業、社会にでていく田中秀樹君がその人で、お父さんは守義さん（本所の水道課勤務）でお母さんはまつえさん。とくに母親のまつえさんは、苦しい中三池主婦会本所支部の支部長さん。

秀樹君の日常は、同校サッカー部のキャップでもあった関係でそれはそれはきびしいものだった。

こんど高校にすすむ弟の昭治君も兄貴と同じく、やっぱり新聞配りをやってがんばっているが、秀樹君は弟がカゼをひいたり、修学旅行にいったりするときには「よし」といって二人分の新聞を配り歩いた。

それでいてサッカー部のキャプテンとして、一般の生徒より毎朝一時間早く途校しなければならなかったことを思えば、秀樹君の苦労のほどが察せられる。

田中さん一家はいうところの外来。とかく組合や主婦会運動に周囲は冷たい。母親のまつえさんもさすがに、ときには「いっそ支部長をやめてしまおうか」と考えることもあったが、そんなときそのまつえさんを「かあちゃ、どげんいわれたっちゃ自分たちがわかっているのだから、がんばらんね」——と、はげましてくれる秀樹君だった。

「さすがに嵐の朝なんか、子どもばかりにまかす気になれず、私もいっしょになって新聞くばってさらいたことともあります」——母親のまつえさんも立派だった。

いま秀樹君は「ひと口に六年間といっても、やっぱり長かったなア。しかしがんばれば何でもやれるもんだということを、経験を通して知った。この気持を忘れず、これからもがんばるんだ」、と述懐しているという。

秀樹君の多幸を心から祈ってあげよう。

がんばれ、秀樹君！

◎　◎

組合員・家族の皆さん、本紙にどしどしご投稿下さい。